９氏に在外公館長表彰＝110周年で総領事館に協力＝「受賞励み、もっと尽くしたい」

受章者の皆さん

　在聖総領事館（野口泰在聖総領事）は「平成３０年度在外公館長表彰伝達式」を５日、総領事公邸で行った。今年はブラジル日本移民１１０周年に際して同館活動を支援し、また、長年に亘って日系社会の発展に貢献してきた９氏が栄誉に浴した。

　同日午前１１時、受賞者の一人である尺八奏者・シェン響盟リベイロ氏が国歌「君が代」を奏で、雅な音色が余韻を残すなか、粛々と伝達式が執り行われた。挨拶した野口総領事は「日系社会が一体となって日本移民１１０周年を祝すことが出来た。協力して下さった皆さまに、深く感謝申し上げます」と話し、表彰状が授与された。

　眞子さまノロエステご訪歴の立役者、ノロエステ連合日伯文化協会の安永信一会長は「皆のおかげで成功裏に終えることが出来た。１１０周年をきっかけに、距離的に遠いサンパウロ市日系社会や総領事館との関係が非常に近くなった」と話した。

　来場者人数が過去最高の２１万５千人を突破する大成功をおさめた県連日本祭り。実行委員長として牽引してきた市川利雄氏は「日本祭りはもはや県連だけのものでなく、サンパウロ市の祭りになった。それに応じて、協賛企業にとって価値あるものにするために、プロが行う祭りになってきた」と振返った。「家庭を忘れて仕事をしていて、女房からは怒られたよ」と笑いを誘いながらも、「若者が多く参加し、最高の祭りになった。我々もがんばったが、総領事館も相当がんばった。むしろ日系社会から総領事館を表彰しないといけない」と謝意をこめた。

□□□